本學教授新刊紹介

近藤次郎著「統計学のための数学入門」

近頃統計が各方面に応用されるようになつて行政機関や銀行・会社・工場などの企業方面でも統計を用いて政策を決定したり、経営の分析を行つたりすることが多い。また農学・教育学・経済学といつた各分野の科学の探究にもその手段として統計を利用することが非常に多くなつた。このため国民全般の統計に対する関心が高まり、わが国でもその参考書は海外名著の邦訳も含めて相当な数に上り、理論・応用の両面とも相当高級なところまで邦書のみに頼つて勉強することができるようになつた。

統計では数字をとり扱うのが著しい特徴で、とくに近代統計学では数学によつて理論が展開されるので、統計を研究したり応用したりする場合には数学の知識が必要となる。本書はこのような統計学に必要な初等数学の知識をまとめたもので、高校の解析Ⅰや一般数学の程度から出発して数理統計によくあらわれる独特の計算（nの計算、最小二乗法、誤差積分）や理論（微、積分や確率論）をのべている。

統計の参考書は通常、数式の説明や数学公式の解説に余分の紙数を費し、全般の構成を害しているようである。本書は微・積分等にかんしてはやや記述が不十分であるが、統計研究に必要な数の計算・函数の計算・確率の計算の三篇二十七章よりなり、合計三百五十に余る練習問題および解答をふくみ、文科系の新制大学の教養課程の数学教科書としても利用できるように考慮されている。（東洋経済新報社。昭和二十九年一月。A5二〇六頁。三五〇円）

海老沢有道著「吉利支丹暦」

一九一六年発見されながら、永い間学界に紹介されなかつた故林若樹氏旧蔵のキリシタン古暦は、従来知られたキリシタン教会暦として最も整つたものであり、本誌第一集に海老沢教授による詳細な書誌的研究と校訂が発表されたが、今回本誌発表論文を解説として附し、一誠堂主酒井宇吉氏により写真複製されたことは悦ばしい。が、非売品であるばかりでなく僅か二十部の限定で、特殊な研究者のみに寄贈されるにとどまり、一般有志者が入手出来ないことは、折角の好挙であるだけに惜しまれる。（一誠堂。昭和二十九年三月。一帙。解題A5五五頁。図版二五葉。非売、二〇部限定）

ビアード著 岸村金次郎訳「改訳アメリカ合衆国史上巻」

アメリカ史学界において最も標準的な概説書として知られているチャールズ・ビアード Charles Austin Beard 夫妻の A

Basic History of the United States, 1944 の譯訳。夫妻の畢生の事業ともいうべき「アメリカ文明の興起」の入念かつ尨大な研究と経驗の上に、アメリカ史を形成した基礎的諸相をとらえた名著。五年前に学長祕書岸村氏が訳出したが、ここに更めて松本重治氏の協力を得て前回の誤謬を正し、改訳、決定訳として再刊された。（岩波書店。昭和二十九年二月刊。A5三四二頁。七〇〇円）

聖アウグスチヌス著
高橋亘訳「秩序論」

本書は聖アウグスチヌスが回心後、受洗までミラノの郊外カッシキアクムの山荘にあつて、母、弟、及び数人の友人、弟子とともに語りあつた結果を纒めた所謂カッシキアクム対話篇の一つで、既に邦訳のある「幸福なる生活」「ソリロキア」の中間に位する作である。

本書は、中世哲学の根本概念の一つたる「秩序」及び人間永遠の問題たる悪の問題に就いて聖アウグスチヌスの語つた最初の言葉である。秩序とは何か。「万物の平和は秩序の静けさである」という美しい言葉を聖アウグスチヌスは神国論において語つたが、本書においては「秩序とは、それを把捉することなくしては神に至り得ないもの」という倫理的側面よりこれを見ている。聖アウグスチヌスは深い信仰心、気高い魂、鋭い知性とともに、また芸術的天分にも恵まれた人であつた。その点においても本書はしばしば問題とされる作である。こうした書がいまここに高橋訳師によつて口語的に極めて平易に訳出されたことは喜びにたえない。（中央出版社。昭和二十九年七月刊。B6一四二頁。一二〇円）

内藤智秀著「史学概論」

十余年前史学概論を著して好評を得た著者内藤博士が、近時の世界の大勢と歴史学の発展に応じ書き改められたもので、自然科学的公式によるのでなく精神科学としての歴史学の主張の上に、著者の豊富な経驗を通して、史学研究の基礎的知識と研究法について「歴史の認識」「歴史の法則性」「歴史の定義とその変遷」「史学史」「史学方法論」に分つて述べられ、さらに「歴史教育論」を附されている。というよりこの部は本書の四分ノ一を占めるほどであり、本書の著しい特色をもなしている。尨大な史学上の諸問題を簡潔に要約した便利な入門書である。（福村書店、昭和二十九年九月刊。A5一七九頁。二八〇円）

A・ゲゼル著　依田新、岡宏子訳
「乳幼児と現代の文化 その発達と指導」

Arnold Gesell, Infant and Child in the Culture of Today, New York, 1943. の共訳者岡宏子氏は本学助教授。著者ゲゼルの思想に対する深い学的理解と相俟つて正確な訳への

努力は本書をして好力作たらしめている。内容は著書の「発達の哲学」を述べている第一部（成長と文化）、生後数ケ年の発達の特性を具体的に述べている第二部（成長する子ども）、指導法について述べている第三部（発達の指導）とからなっている。全篇は著者の民主主義に対する確信と子どもへの愛情と期待とに貫かれているとともに、その一々の所説は空虚な理論ではなく、実に豊富な観察例によって裏付けられた具体的なものである。その故に本書はあくまで現代アメリカ文化の中における子どもの成長を述べているのであり、専門的興味においては文化人類学的な立場からのパーソナリティ発達の研究に示唆を与えるものであるが、同時に本書のもつ具体性は父や母、幼稚園や保育園の保母などの子どもへの愛情に、叡知と科学的な洞察力とを与えその愛情をかがやかしく力あるものにするのに役立つであろう。（新教育協会、昭和二十九年九月刊。A5六三一頁。図版。一二〇〇円）

近藤次郎著「積分方程式」

微分方程式に較べて積分方程式はまとまった参考書が極めて少ない。本書は積分方程式の理論と応用を系統的に述べた大学院学生及び研究者向きの参考書である。とくに非線型、特異、異常、連立積分方程式等これまで余り紹介されていない特殊な場合にも触れている。また応用例は流体・弾性・光学・自動制御・確率統計・数理経済等応用数学全般にわたり、最新のものを多数、含んでいる。積分方程式の理論を厳密に証明し、解法に共通な考え方について詳述してあるが、重要な定理には十分補足的説明を加え、さらに多くの練習問題を付けてあるから独修者にも十分理解できるものと期待される。

しかし非常型積分方程式の理論等は現在の解析学の一つの中心問題であるし、特異核の積分方程式の解法は今日の応用数学の最も興味のある問題に連関しているが、本書はこれらについて十分な紙数を費していない。しかし巻末の文献や積分方程式小史はこれらの問題に進む研究者にも役立つところが多いと思われる。

（培風館。昭和二十九年十月刊。A5三三六頁。六八〇円）

受贈交換誌（一九五四・一—八）

愛知大学文学論叢	八	
同　法経論集	八—九	
愛知学芸大学研究報告	人文科学	三
同	自然科学	三
愛知学院大学論叢	一	
アカデミア	六—七	南山大学
別府女子大学紀要	四・五	
文芸と思想	八—九	福岡女子大学
文化学年報	三	同志社大学文化学会

文藻　四　実践女子大学　学友会
千葉大学文理学部紀要　自然科学一ノ三
同　文化科学一ノ二
中央大学々報　一七ノ三—四　同志社大学　人文学会
同志社大学短期大学部研究年報　三
同志社女子大学々術研究年報　四
愛媛大学歴史学紀要　二
英米文学　一五　立教大学英米文学研究室
英語英文学評論と研究　一　大阪大学　英文学研究会
英語と英文学　二　東京都立大学英文学研究会
ふ　じ　三　藤女子短期大学
福島大学々芸学部論集　四—五
同　理科報告　二—三
風俗研究　四　宗教文化研究所
学　苑　一五七—一六五　昭和女子大学　光葉会
岐阜大学々芸学部研究報告　人文学科　二
弘前大学人文社会　四
広島女学院大学論集　三ノ一
北海道大学文学部紀要　三
北海学園大学経済論集　一
法学会誌　六　明治大学法学会
法政大学文学部紀要　I史学I
放送文化　九ノ一—八　日本放送協会
岩手大学々芸学部研究年報　五—六
人文学　四、八—十一、十三　同志社大学　人文学会
人文科学研究　六　新潟大学
人文論究　四ノ四—六、五ノ一　関西学院大学　文学会
実践女子大学紀要　二
順天堂だより　三ノ一—二
香川大学経済論叢　二六ノ四、二七ノ一—二
鹿児島大学文理学部研究報告　文科報告　三
同　社会科報告一
Kanazawa English Studies　1　金沢大学　英文学会
経済系　一八—二一　関東学院大学
金城学院大学論集　二—三
神戸女学院大学論集　二
高知大学々術研究報告　二ノ一—五、二〇—二七、四二
高知女子大学紀要　二ノ一
国会図書館収書通報　七九—八一
国文学　一一　関西大学　国文学会
国内出版物目録　五ノ一〇—一二、六ノ一—四、二八定期
駒沢史学　四
甲南大学文学会論集　一
熊本女子大学々術紀要　六ノ一
久留米医学会雑誌　一六ノ一—二、一七ノ一—二
教育研究　一　青山学院大学　教育学会

京都女子大学紀要　文学部　六―七
同　家政学部　二
Literature　6　札幌短期大学　文泉学会
明治学院論叢　三二ノ一―二、三三
三重県立大学研究年報　人文科学　一ノ三
同　自然科学　一ノ三
三島学園女子短期大学研究報告　二
六浦論叢　三　関東学院　六浦学会
浪速大学紀要　人文社会科学　一―二
奈良学芸大学紀要　三ノ一―三
日本文学　三　東京女子大学日本文学研究会
日本文芸研究　五ノ四、六ノ一　関西学院大学日本文学会
日本文学世田谷教養部紀要　二
お茶の水女子大学人文科学紀要　四
大分大学経済論集　五ノ二―六ノ一
大隈研究　一―四　早稲田大学　大隈研究室
大阪大学文学部紀要　三
大阪大学南北校研究集録　人文社会科学　二
大阪学芸大学研究業績目録　四
大谷学報　三三ノ二―四、三四ノ一
労働パシフィック　一六―一九　ＡＦＬ東京事務所
立教大学神学年報　一
立正大学文学部論叢　一
立正史学　一六
立命館文学　一〇四―一一〇
竜谷大学論集　三四七
西京大学学術報告　人文　四
生活科学　二ノ三　福岡女子大学
世界の動き　二四―三〇　外務省情報文化局
史潮　五〇　大塚史学会
滋賀大学々芸学部紀要　人文社会・教育科学　三
同　自然科学　三
史学　二七ノ一―三　三田史学会
島根大学論集　人文科学　四
神道宗教　六　国学院大学神道宗教学会
信州大学研究論集　四
史林　三七ノ二―三
静岡大学文理学部研究報告　人文科学　四
同　自然科学　四
宗教研究　一三八―一三九　日本宗教学会
駿台史学　四　明治大学駿台史学会
相愛女子短期大学研究論集　一
ソフィア　三ノ一―二　上智大学
鈴峰女子短期大学研究集報　一
拓殖大学論集　六
大正大学研究紀要　三九

天理大学々報　一一―一二
哲　学　三〇　三田哲学会
東北大学文理学部文学紀要　三
東北学院大学論集　人文科学　一〇
Tohoku Psychologica Folia xiv, No.1~2 東北大学文学部
統計局研究彙報　六　内閣統計局
東京大学教養学部人文科学科紀要　二　古代研究　一
同　三　哲　学　一
同　四　国文学漢文学　一
徳島大学々芸紀要　社会科学　三
同　人文科学　三
鳥取大学々芸学部研究報告　人文科学　四
富山大学文理学部文学紀要　三
東洋大学紀要　六
早稲田学報　一―六
山口大学文学会誌　五ノ一
山梨大学々芸学部研究報告　四

執筆者紹介

広瀬京一郎　哲学助教授
刈田元司　英文学講師（上智大学教授）
海老沢有道　日本史学教授
近藤次郎　数学教授
中津井英子　化学助教授

前号目次

（A5二〇八頁。価二五〇円）

日本天文暦学の発展と南蛮学統……海老沢有道
漢代官吏の服務規定……大庭修
休暇を中心として
紅葉の〝涙〟……松下宗彦
週間宗教教育の一研究……岩下新太郎
公立学校における宗教教育取扱のアメリカ的実現として
仮名垣魯文・人と生活……小林智賀平
西洋道中膝栗毛を中心として
本学図書館所蔵プティジアン版解題
An Aspect of "Antigone"……Avelyne Wall
Principles of Democracy as found in Aristotle and St. Thomas……Florence Atkinson

昭和二十九年十一月十五日印刷発行
聖心女子大学論叢第五集
（価二〇〇円）
編集者　海老沢有道
印刷者　山村栄
発行所　聖心女子大学
東京都渋谷区宮代町一